

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第62号

発行:2018年7月8日
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
副住職 天野英昭
〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号
TEL・fax(082)428-0160・(082)428-1360

盆会法座

日 時 8月1日（水） 9:00～15:00頃

朝席 9:00～11:30 暮席 13:00～15:00

ご講師 山下瑞円 師（岡山県高梁市成羽町 淨福寺副住職）



第81回歎異抄輪読会

日 時 7月12日（木） 19:00～20:30頃

ご講師 松田正典先生（広島大学名誉教授）

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

志和組少年・少女合宿練成会

日 時 平成30年7月30日（月）～31日（火）

場 所 天龍寺

内容等 仏さまのおはなし、レクリエーション、仏前作法の練習、花火大会など

対 象 小学校3～6年生

申し込み 参加ご希望の方は、天龍寺または近隣の寺院に申し込みください。

磯松天龍寺墓苑並びに合同墓（永代供養墓）合同参拝

日 時 8月12日（日） 18:00～19:30

場 所 磯松天龍寺墓苑



※ 大変お忙しい時期とは存じますが、多数のご参拝を念じ申し上げます。

但し、天龍寺墓苑での合同参拝は、関係者の方のみとさせていただきます。

★天龍寺佛教壯年会 月例会

7月31日（月）19:00～20:30

★天龍寺佛教婦人会 練成会打ち合わせ 7月16日（月）15:00～17:00

★おみのりカフェ寺ス 7月24日（火）14:00～ 西蓮寺にて 参加費 500円

広島別院清掃奉仕・天龍寺清掃奉仕・草刈りに対しまして感謝申し上げます。

先月の6月5日（火）に天龍寺佛教婦人会、壯年会の皆様と広島別院の清掃奉仕に行って参りました。また、6月9日（土）には天龍寺にご関係をいただいております天龍寺佛教婦人会のみなさまによる清掃奉仕をしていただきました。佛教婦人会のみなさまには、本堂内も含め清掃をしていただきました。毎年、お忙しい中おいでいただき、清掃奉仕にご参加いただきましたこと書面をお借りしまして感謝申し上げます。

また、天龍寺佛教壯年会のみなさまには、6月16日（土）に暑い中、当山の裏山をはじめ境内全体の草刈りをしていただきました。一緒に共有させていただきました事も含め厚く感謝申し上げるしだいです。



私という存在 IV

さらに話は展開しますが、海に浮かぶヤシの実の如く、海の上を左右上下し、心配・不安・恐怖等におびえながら生きている存在だと思います。

2年前くらいでしょうか、輪読会の主題に「主体の確立」という時間がありました。私に限らず、だれしもが「主体の確立」を願っているのではないでしょうか。

自分自身を振り返って思いますに、前述したように、いとも簡単に崩れ去っていく健康・家族・財産等の上に立ち、一方で崩れ去っていかないように細心の注意をはらいながら、心配・不安と戦っている毎日とも思う事もあります。

また一方で、「主体の確立」の為には、「自信を持つ。」「他の人に引きずられない。」等と書かれておられ、さらにその後には、仮にその様にしても絶対的な自信等を得る事は出来ないと書かれてあり、自分なりに納得したことです。

先生は、「主体の確立」の為には、「教え」または「大きな世界」という物が必要だと書かれていました。比較（相対）・限りある（有限）の世界を包み込む絶対の世界を基盤にする事だと書かれていました。

その言葉をご教示いただいて2年間、自分なりに「主体の確立」という命題に少しばかり組んでいますが、大きな絶壁を前にどうしたものかと考えることがあります。

本願成就文の『諸有衆生 聞其名号 信心歡喜』という言葉があり、この諸有衆生の自覚こそが大切であると理解しておりますが、一口に罪惡深重の凡夫と口に出すのは簡単ですが、堅い・堅い自己中心の殻が破られる。よい意味で完全なる自己否定、自己の破局があり、その先にある物だとこの点も自分なりに頭の中では理解をしているつもりです。

仏教と言うものは、自らの全てを持ってぶつかっていかなくては開かれるものではないとご教示をいただいた事があります。食べて行くことも本当に大変ですが、「教えは鏡なり。」の言葉の如く、自分の見たくない自分を見、自分の受け入れがたき自分を受け入れて行く等のことは厳しくも残酷な世界だと思う事です。

ただただ遠い・遠い先にあり、一生かかっても諸有衆生の自覚を持つ事が出来ない、そんな思いになる事があります。（次号に続きます。）



しかし、仮に「主体の確立」が出来たならば、本当に広々とした世界に出て生きて行くことが出来ると思う事です。日々の心配・不安・恐怖等は言うに及ばず、さらには「死」というこの世に生を受けたものは避けて通れない底知れない不安・恐怖さえも超えていく人生を歩むことが出来ることだと思います。

この点も以前ご教示頂いたことですが、キリスト教の教えに「はじめにことばがあった。」という言葉があると言われました。私と言う存在、否、人間と言う存在がいようが、いまいが、絶対的な存在があるのだとその時に受け取らせていただいた事です。私が気づこうが、背中を向けようが、無視しようが、絶対の世界からの『われと共にあれ。』『われに帰せ。』のお呼び声が、頭ではなく、心の底から、身体全体に届いて何時になつたら下さるのかと思いますが、まだまだ私には遠い世界の事だと認識してやみません。

しかし、一方で時機純熟の言葉に支えられながら、少しでも前に進めればとも思う事です。

最後に、これまでの自分の人生を振り返り、母の死・教え子の死等、私は私なりの目をそむけることが出来ない現実に遇いながら、さらにお寺に帰らせていただいて8年になりますが、その間、逆縁の死、さらに毎年十代・二十代の方のお葬儀などのご縁をいただきました。この様なご縁に遇いますと「何と私は無力なのか。」といつも思う事です。一方で「無力と思う私」と言うところに自分の傲慢さがあると気付かされたこともあります。

一口では言えない、いくら時間が経っても癒えない悲しみ・苦しみ・辛さ等を悲しみ・苦しみ等に終わらせるのではなく、亡き母・教え子・友人等の恩に報いるためにも、ただ癒えない悲しみ・苦しみ等ご縁を仏法の糧として、広い世界に出させていただくための糧として生きて行くことが、私なりの恩に報いる事だと思うこのごろです。